

## 平成30年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

平成30年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

### 1 日時

平成30年7月25日（水） 午後1時30分～3時30分

### 2 場所

県庁舎北棟8階 教育庁共用会議室

### 3 案件

- (1) 平成29年度事業実施報告
- (2) 平成30年度事業実施計画
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価
- (4) その他

### 4 委員からの主な意見

- 新収蔵展の「お宝総選挙」はアンケートではなく人気投票だったので、誰もが書いて投票しており大変よかった。また、その結果はホームページにアクセスすれば順位として見ることができ、インターネットを使った大変よいやり方であると思う。
- 「国際博物館の日」の記念講演として行われた下北出身の落語家三遊亭大楽さんの「郷土館寄席」は、席が足りないくらいに人が集まり大いに盛り上がった。このような企画は今後も続けてほしい。
- 新収蔵展では、歴史、考古、先人、民俗等いろいろな分野の展示があつてよかったと思う。特に、豆腐のように切って燃料にする「サルケ」の展示は、郷土館らしい展示であり、このような展示をもっと増やすべきである。
- 世界遺産のうちの自然遺産は国内でも少ない方なので、世界自然遺産である白神山地を、郷土館の展示の中でもう少しアピールすべきではないか。当館の特色も打ち出し、外国人観光客への対応も意識しながら、例えばインスタ映えするような展示の工夫もあつてよいのではないか。
- 当館の一部は建物自体が文化財であり、また、館内には第五十九銀行時代の意匠も残されているので、いつでも建物を観ることができるということと、意匠、デザインに関係するものをミュージアムショップで手にできるということを検討してほしい。
- 青森港に寄港する大型クルーズ船への歓迎活動に関して、例えば高校生を添乗させてシャトルバスを当館まで運行させる、というようなサービスもあつてよいのではないかと

いか。また、海外の人たちは意外に自転車を使うことから、埠頭で自転車貸出についてどこかと提携することができれば、利用する人たちもいるのではないか。

- 全国的に多くの博物館にカフェや休憩室を兼ねた売店などがあり、感想などを語り合える場となっている。これは、館をレベルアップすることにつながるものとする。そこで、休憩室を充実させて飲み物を飲みながら歓談できるスペースにしてほしいということ、また、ミュージアムショップの必要性について、それぞれ当館の長年のテーマでもあるので、アンケートに項目として加えてほしい。
- 館の正面入口付近はテラス状になっているので、夏場の活用は考えられないか。
- 活動できる高校がいくつか協力して対応するという今回のクルーズ船への対応は、大変よいやり方である。
- 企画展等に来た人たちを常設展示の方とにかく誘導するかということについては、以前からの課題である。見せ方、動線の在り方、その仕組み等について、他都道府県の博物館等の展示における順路のデザイン等も参考にすべきである。
- 縄文遺跡群を世界遺産へということで、できれば、5千年前からの歴史は私たちの誇りであるということが再認識され、価値や魅力を再発見するような講演またはセミナーを開催してほしい。
- チラシの配付先については、例えば「コロコロ・STONE」展であれば、中学校・高校の理科教員というように、興味、関心を持っている人にピンポイントで配るというやり方も効果的、効率的ではないか。
- 学校にはいろいろな団体からチラシ等が届けられるが、各家庭、子ども全員に配付できるような枚数が来ることもあり、大変助かっている。郷土館においても、予算が許すのであれば、そのような方向で検討してほしい。
- 企画を全部チラシ等にして配るというのであれば、予算的に相当厳しいと思われるが、「郷土館」というものを伝えたいというのであれば、全県一斉でなくても、年次的な対応ということも考えられる
- 協議会での委員の発言に対して郷土館ではどのように考え対応するか、ペーパーで配付されていたことがあった。次回質問する参考にもなるので検討いただきたい。
- 大きなテーマを設定して、県立美術館、県立図書館・近代文学館と郷土館が得意の分野を活かして連携するような企画を何かできないか。
- 郷土館の上層階に行くにしたがい何か手狭で雑然とした感じが否めない。郷土の著名人たちが隅に追いやられていて何か寂しい感じもするので、見せ方にもう少し工夫をした方がよいのではないか。また、展示の順番によってはどう見るべきか迷うこともあるので、動線について工夫した展示があれば観覧者としては助かると思う。
- 来年は新しい天皇が即位される。また、本県は皇室とのつながりもあるので、御代替わりに当たっての展示、企画を考えていただければと思う。
- 当協議会は資料説明の時間が長く、委員が意見を述べる時間が少ないので、郷土館50周年に向けてのテーマ1本で意見を聞く場を設け、委員の見識を活用するように

してほしい。

- 解説員の分かりやすく温かな解説や対応に、子どもたちも含めていつも満足している。このような郷土館の雰囲気これから大事にしてほしい。
- 距離的なこともあるのかもしれないが、地域によってはどうしても郷土館が身近なものに感じられない。出前教室のような機会も大事にして、チラシの配布や宣伝以外にも、郷土館を身近に感じることができるような広報をしていただきたい。
- 来年4月開館の「三内丸山遺跡センター」は三内丸山遺跡を取り扱う遺跡博物館であり、これに対して郷土館は三内丸山遺跡以外の縄文遺跡7箇所も扱う総合博物館であることから、そのような責任のある立場というものをもう少し活かすべきではないかと考える。
- 三内丸山遺跡センターの展示と郷土館の展示にそごがあって、観覧者が2つを比較したとき、どちらの展示内容を信頼したらよいか悩むようなことがないようにすべきである。当館は開館以来、40年以上も経過しているが、例えば縄文集落のジオラマに見られるように、開館後の研究成果が取り入れられていないところもあるので、展示内容を検討する必要がある。
- 北海道の白老に国立アイヌ民族博物館が開設されることになった。青森県にもかつて「アイヌ」の人たちが住んでいたことから、郷土館は総合博物館として、歴史・民俗・考古の3分野にわたり「アイヌ文化」をテーマとして語るができるので、東北北部のアイヌ文化ということでアピールしてもらいたい。